

## M/GE-ISW-SFP-01-PD

ギガビット 10/100/1000 ブリッジ型 PoE-PD 受電方式  
動作温度拡張 100/1000 SFP オープンスロット  
ミニ・メディアコンバータ



### 日本語取扱説明書

P/N 33668 Rev.B

## 目次

トレードマークについて	2
改版履歴	3
製品概要	3
機能と利点	3
製品モデル	4
コネクタと LED の動作説明	4
アプリケーション例	4
付属品リスト	5
設置	6
オペレーション	10
電源オン時の SFP モードについて	11
搭載機能	11
互換性のある対向デバイス	13
2 芯光ファイバ・ケーブル仕様	14
ツイストペア・ケーブル仕様	14
技術仕様	15
トラブルシューティング	16
お問い合わせ	17

## トレードマークについて

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

## 著作権／制限事項

© 2022-2024 Lantronix, Inc. 本書の無断転載を禁じます。本書の内容のいかなる部分も、Lantronix の書面による許可なくして、いかなる形式または手段によっても、転送または複製することを禁じます。

Lantronix は、米国およびその他の国における Lantronix, Inc. の登録商標です。

その他のすべての商標および商号は、各所有者の財産です。

特許取得済み : <https://www.lantronix.com/legal/patents/>; 追加の特許は申請中です。

33668.B\_M-GE-ISW-SFP-01-PD-User-Guide.pdf この日本語版マニュアルは、この Part Number (文書番号) およびファイル名を持つ英文版のマニュアルを基に株式会社ピーエスアイが作成したものです。

## 製造・販売元

Lantronix Corporate Headquarters

48 Discovery, Suite 250 Irvine, CA 92618, USA

Toll Free: 800-526-8766 Phone: 949-453-3990 Fax: 949-453-3995

販売拠点

最新の国内外販売拠点一覧は、以下の Lantronix 社のウェブサイトをご覧ください。

[www.lantronix.com/about/contact](http://www.lantronix.com/about/contact).

## 免責事項

ここに含まれるすべての情報は、" 現状 " で提供されます。Lantronix は、本書の情報を更新する義務を負わないものとします。Lantronix は、本書で提供される情報のタイトル、非侵害、適合性、品質、正確性、完全性、有用性、適合性または性能について、いかなる種類の保証も行わず、特にこれを否認します。Lantronix は、ユーザーが本書に含まれる情報またはコンテンツにアクセスまたは使用したことに関連する損害、損失および訴訟原因（契約または不法行為その他を問わず）に対して、いかなる責任も負わないものとします。本書に記載されている情報および仕様は、予告なく変更されることがあります。

## 改版履歴

Rev.	リリース日	修正内容
A	2018/05/11	初期リリース
B	2024/02/06	Lantronix リブランド、書式統一化 アクセサリ追記

本書の内容は、表の一番下にある最新バージョンに基づいて作成しております。

## 製品概要

ラントロニクス社 M/GE-ISW-SFP-01-PD は、電源不要の産業用グレードの上位版で 10/100/1000BASE-T (RJ-45) を 100BASE-X または 1000BASE-X に変換して伝送する業界最小サイズのレイヤー 2 メディアコンバータです。屋外や過酷な環境にある 10/100/1000 UTP イーサネットを電源代わりにして、ギガビットクラスのデータを光ファイバ・ケーブルに変換統合するためにコスト・パフォーマンスの高い方法を提供します。PoE スイッチは 802.3af に対応していることを念のため確認してください。

PDの入力電源はDC37V～57Vに対応しています。必要な電力はわずか1.8Wで動作します。PoE 給電規格 Class 0 または Class 1 に対応している PoE スイッチか PoE インジェクタをご用意ください。

オープンスロットの SFP は 100M または 1000M にレートに対応しており、マルチソース アグリーメント準拠の SFP であれば、他社製の SFP トランシーバであっても受入ることができます。

## 機能と利点

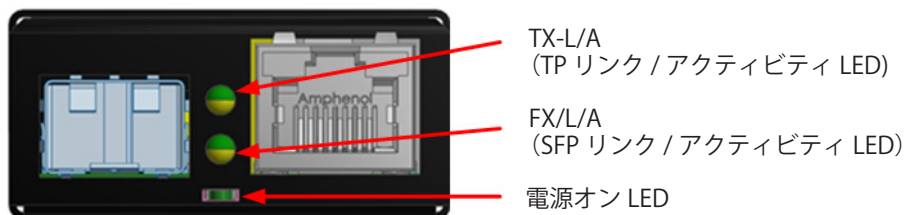
- IEEE802.3af 規格に完全準拠、PoE 給電のみ
- 低価格／省スペース ギガビット光
- 100M またはギガビット 光 SFP トランシーバ対応
- 動作温度拡張 -40°C～75°C
- オートネゴシエーション、オートクロス、アクティブ・リンク・パススルー
- SFP スロットは 100/1000（電源投入時に自動レート固定）
- クラス 1：低消費電力 3.84W

## 製品モデル

製品名	ポート 1⇔ポート 2 構成
M/GE-ISW-SFP-01-PD	10/100/1000Base-T ⇔100/1000Base-X SFP スロット (空き)

## コネクタと LED の動作説明

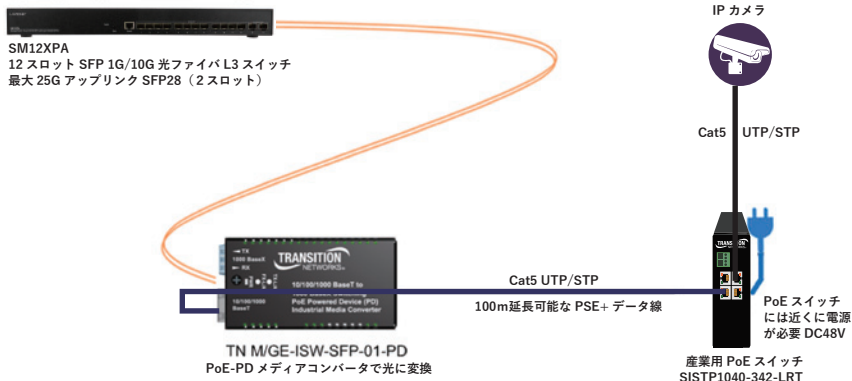
- ポート 1 コネクタ：10/100/1000Base-T PoE-PD (RJ-45) × 1 ポート
- ポート 2 スロット：100/1000Base-X SFP オープン × 1 スロット
- LED： 2つのリンクおよびアクティビティの状況を示す LED
  - TP (RJ-45) リンク / アクティビティ 緑点灯 / 点滅
  - SFP リンク / アクティビティ：緑点灯 / 点滅
  - 電源インジケータ：緑点灯



## アプリケーション例

M / GE-ISW-SFP-01-PD は、以下に示すようにラントロニクス製品を使用してデータ伝送速度が 1G のネットワークで PoE スイッチを有効利用しながら、監視カメラの運用をするために使用されます。

ネットワーク・コアスイッチと光接続または同型メディアコンバータで RJ-45 ポートに変換することもできます。



以下オプション・アクセサリ（別売）		
動作温度拡張 SFP トランシーバ型番：光モジュール例	光コネクタ   光ファイバ種類 / dB	
TN-GLC-SX-MM-RGD: 1000SX 850nm (550m)	LC	2心マルチモード / 9.0dB
TN-GLC-SX-MM-2K-RGD: 1000LX 1300nm (2km)	LC	2心マルチモード / 8.0dB
TN-GLC-LH-SM-RGD: 1000BASE-LX 1310nm (10km)	LC	2心シングルモード / 9.0dB
100BASE-X の対応 トランシーバは以下の通り（動作温度拡張版は 3 種類のみ）		
TN-GLC-FE-100FX-RGD : 100BASE-FX 1300nm (2km)	LC	2心マルチモード / 11.0dB
TN-GLC-FE-100LX-RGD : 100BASE-LX 1310nm (10km)	LC	2心シングルモード / 14.0dB
TN-GLC-FE-100LX-RGD : 100BASE-LX 1310nm (40km)	LC	2心シングルモード / 25.0dB
1 ギガビット SFP トランシーバにつきましては、後述されている QR コードから参照できる当社のホームページにある SFP カタログから選定することが出来ます。		
マウンティング・オプション・アクセサリ		
WMBM	ミニ・メディアコンバータ用壁取付金具	
RMS19-SA4-02	4 スロット・メディアコンバータ・トレイ（電源無）	
RMBM	トレイまたはラックにミニコンバータを搭載する場合の取付金具として 1 個毎に必要	
E-MCR-05	12 スロットメディアコンバータ・ラック（但し、動作温度 0℃～50℃の環境でのみ動作します）	

電源オプション	
SPS-UA12DHT-JP	産業用グレード 動作温度 -30℃～70℃、動作湿度 20%～90%、取付不能、AC100～240V 入力 / 出力 DC12V/1.3A、AC100V 用電源ケーブル付、DC バレル変換ケーブル付
25165	産業用グレード 動作温度 -30℃～70℃、動作湿度 10%～95%、DIN レール組込用電源、AC100～240V 入力 / 出力 DC12V/2.0A、AC100V 用電源ケーブル付、DC ケーブル付属無
25135	産業用グレード 動作温度 -20℃～70℃、動作湿度 20%～90%、DIN レール組込用電源、AC100～240V 入力 / 出力 DC24V/0.42A、AC100V 用電源ケーブル付、DC ケーブル付属無

## 付属品リスト

- マジックテープ（1組 / 長さ 7cm × 幅 1.9cm）
- DIN/IEC レール・クリップとネジ（各 1）
- 取扱説明書（本紙）

## 設置

ESD に関する注意事項を厳守して下さい。

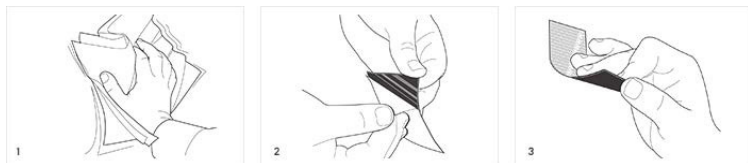
M/GE-ISW-SFP-01-PD メディアコンバータの設置時、手渡しする際には ESD (静電気放電) の注意事項を守ってください。

コンバータの設置場所が確定する前に、保護パッケージから取り出さないで下さい。

任意のモジュールまたはコンポーネントを取り扱う前に、静電気防止用のアース・ストラップを腕または体に取り付けてください。リスト・ストラップがない場合は、静電放電を防ぐ必要のある作業中はアース・グラウンドに触れながら作業を行って下さい。

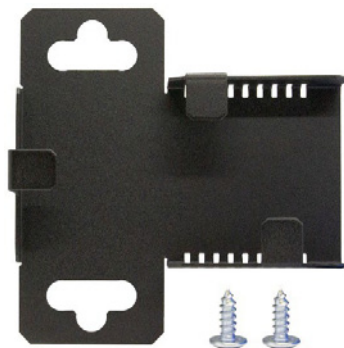
## マウンティング・オプション

- DIN/IEC レールへの取付 (次ページ)
- 別売金具：WMBM (壁取付用) または RMBM (RMS19-SA4-02 ラック取付用金具)  
取付はラックまたは金具の専用取説を参照して下さい。
- 別売ラック：RMS19-SA4-02 (4 スロット・トレイ・EX ロング) それぞれラックの取説を参照して下さい。
- Velcro マジックテープ  
マジックテープは、プラスチック製フックなどの滑らかな表面上で優れた面接着を実現するテープです。

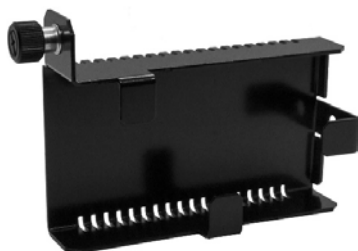


1. テープを貼り付ける場所をきれいにし、乾燥させます。
2. 接着面を剥離させます。なるべく接着面に触れないようにして、
3. 貼り直しの無いように 1 回で所定の位置に貼り付けてください。  
接着剤は 24 時間後に最大強度に達します。

**WMBM** : 壁取付用金具 (木ネジ×2)



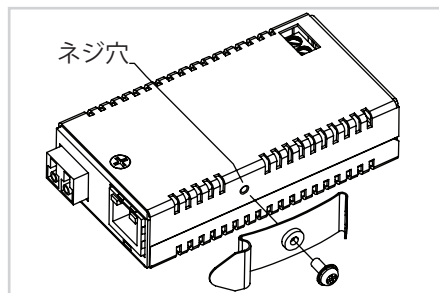
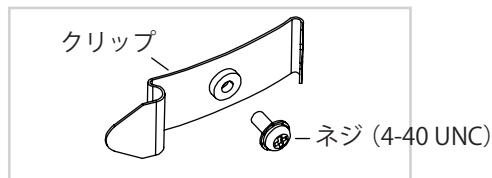
**RMBM**：ラック・マウント・トレイ E-MCR-05 または RMS19-SA4-02 取付用金具



## DIN/IEC レール取付金具の組み立て

付属の DIN レール・クリップと固定用ネジを下の画像を参考に本体の正しい位置に取り付けて下さい。

付属品：DIN クリップとネジ



クリップは元から曲りがあり、ネジで取付後、本体とクリップの間に隙間ができるようになっていますが、それは正常です。ネジを締めすぎないで下さい。

クリップには M4 という刻印がありますが、ネジの規格のことではありません。  
(4-40 UNC = タップ幅 2.35mm、ピッチ幅 0.635mm)

DIN レールまたは IEC レールは、35mm 幅が適合しています。

## サージ・プロテクターの設置推奨

屋外防水ハウジング内に設置する場合を含め、PoE 受電デバイスとなる当メディアコンバータの場合、RJ-45 ケーブルの途中にサージ・プロテクタを挟み込むことを推奨いたします。また、その場合 POE による電力給電を維持する仕様があるものを選択して下さい。

## 適合する SFP トランシーバについての情報

型番 M/GE-ISW-SFP-01-PD には最初から光ファイバのモジュールがなく、別売の SFP (スモール・ファクタ・プラグブル) トランシーバでを挿入してから光ファイバを接続する必要があります。対応する光トランシーバ・モジュールは、100BASE-X かまたは 1000BASE-X などになり、代表的な製品は 5 ページに掲載しています。5 ページ以外の SFP トランシーバについては、SFP の Web カタログなどを参照して下さい。

注:SFP ポートは、UL Listed のマルチソースアグリーメント準拠のオプション・トランシーバ製品 (定格 DC3.3V、レーザークラス 1、または SFF 委員会が定めた仕様の最大 1.0W までの消費電力の Power Level I モジュールだけが利用できます)を使用する必要があります。最大 1.0W を越える場合は、挿入先のスロットを持つホスト製品製造メーカーに、SFF-8472 および Power Level II モジュールに適合しているかを確認しなければなりません。Power Level II モジュールの動作条件上、最大消費電力である 1.5W は、電源投入後 500ms からレベル II 動作が有効になるまで 1.0 W を超えてはならない必須条件があります。

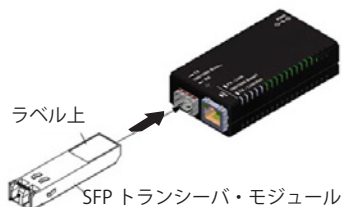
また、ラントロニクス社が販売している HP 社準拠、Cisco 準拠、Juniper 準拠など各種メーカー ID 準拠品であっても、ラントロニクス社が販売しているすべてのメディアコンバータやスイッチで動作させることが出来ません。

なお、ラントロニクス社が販売するすべての準拠品は各社の OEM 製品ではありません。

当社ホームページで、上記以外のすべての SFP トランシーバ・モジュールを参照することができます。なお、このメディアコンバータで利用可能な SFP トランシーバ・モジュールは、製品の仕様に基づき、100M または 1000Mbps のレートで動作するものが対応しております点にご注意ください。

### ● SFP カタログ (すべて)

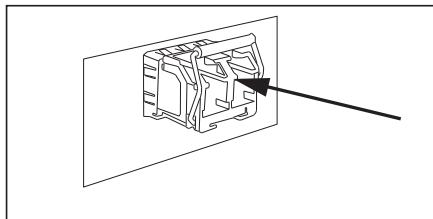
<https://bit.ly/41bXdYW>



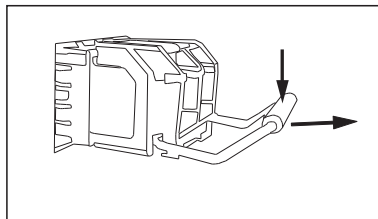
短縮前の URL = <https://corp.psi.co.jp/wp-content/uploads/2023/08/Optical-TranceiverModule-Catalog.pdf>

1. SFP トランシーバをスロットに挿入します。スロットの奥を事前に確認して、SFP トランシーバの接続端子を差し込むスロット (溝) を目視で確認すると、差し込む向きがどちらであるかわかると思ます。
2. 正しい向きで SFP トランシーバを挿入すると、奥まで差し込むことが出来ます。
3. 光ファイバを接続する直前まで、SFP トランシーバのダストキャップは取り外さないようにしてください。





Lantronix 製の SFP トランシーバ・モジュールを使用する場合は、製品ラベル面を上に向けてた状態（ラッチレバーが上）で奥まで挿入します。

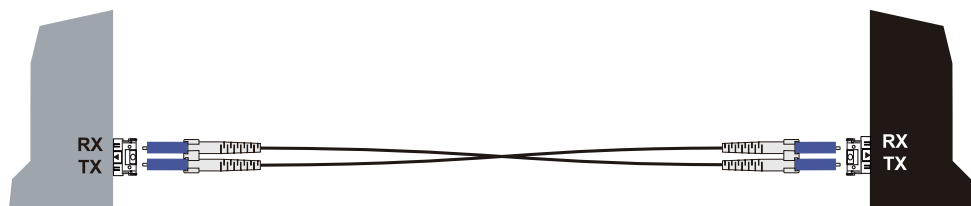


SFP モジュールを抜くには、ラッチ・レバーを下に下げたまま、レバーごと引き抜くと外れます。

## 光ファイバの接続

光ファイバ側に関してのみ：フル・デュプレックス（常時）であり、512bit ルールは適用されません。仕様に準拠した長さの光ファイバケーブルを使って接続して下さい。次の説明されている通り、M/GE-ISW-SFP-01-PD の片側にパッチコードを接続して下さい。TX 側のオスのパッチコードを、機器側の TX ポートに挿し込みます。RX 側のオスのパッチコードを、機器側の RX ポートに挿し込みます。次に説明されている通り、対向先のメディアコンバータに反対側のパッチコードを接続して下さい。

TX 側のオスのパッチコードを、機器側の RX ポートに挿し込みます。  
RX 側のオスのパッチコードを、機器側の TX ポートに挿し込みます。



(2 心 LC) 光ファイバ・ケーブルの接続図

## ツイストペア (TP) ケーブルの接続による電源供給

接続するネットワークの状況に従って、オートクロス機能により、自動的に MDI (ストレート結線) または MDI-X (クロス結線) が選択されて接続されます。

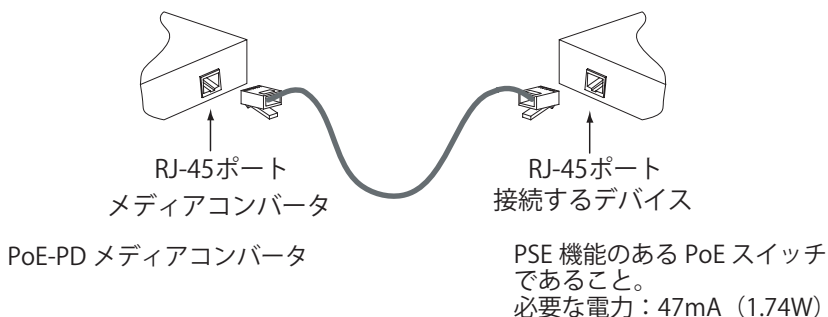
全二重のモードを使用する場合は、512bit ルールは適用されません。必要なケーブルの様に基づき、ケーブルの長さには制約があります。

両端に RJ-45 コネクタを備えた IEEE802.3 互換 10/100/1000Base-T のケーブルを用意して下さい。(例: カテゴリ 5e 以上など)

M/GE-ISW-SFP-01-PD メディアコンバータの RJ-45 ポートに片端のケーブルを接続して下さい。

反対側の RJ-45 コネクタは、IEEE802.3af 規格に準拠している PoE スイッチに接続して下さい。PoE 電圧は DC37V ~ 57V に対応、Type1 クラス 0 またはクラス 1 に対応していることをご確認ください。

**光ポートの SFP トランシーバ・モジュールは、必ず RJ-45 ポートを接続前に SFP スロットに先に挿入しておく必要があります。**



## オペレーション

メディアコンバータの動作状況は、点灯する LED の状態で判断できます。

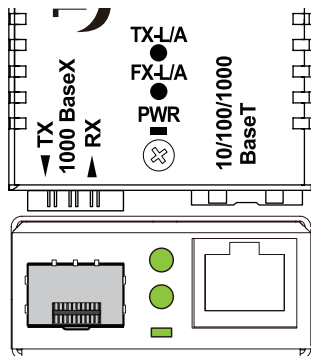
TP リンク / アクティブ LED : TX-L/A

緑 点灯 = 10/100/1000Base-T リンク  
点滅 = 受信中 または ALPT 起動中  
消灯 = 未リンク

光ファイバ・リンク / アクティブ LED : FX-L/A

緑 点灯 = 100BASE-X/1000BASE-X リンク  
点滅 = 受信中  
消灯 = 未リンク

電源 LED : 点灯 = 電源オン : PWR  
消灯 = 電源オフ (PSE オフ)



## 電源オン時の SFP モードについて

SFP トランシーバ・モジュールの挿入状態によって、本体の電源をオンした時に SFP の速度モードが次の表の通りに決定されますのでご注意ください。

電源オン時の SFP スロットの状態	SFP スロットの速度
SFP モジュール未挿入	1000BASE-X
1000BASE-X SFP モジュール挿入時	1000BASE-X
100BASE-X SFP モジュール挿入時	100BASE-X

## 搭載機能

### 混雑緩和

M/GE-ISW メディア・コンバータは、コリジョン信号、エラー・パケットを転送しませんので、基本的なネットワーク・パフォーマンスが改善されます。さらに、メディア・コンバータはローカル装置のパケットをフィルターしますので、ネットワークの混雑を減らします。

### オートネゴシエーションとレート変換

オート・ネゴシエーション機能は、10/100/1000Base-T ポートで使用される場合、有効です。オート・ネゴシエーションを使うと、メディア・コンバータはリンク速度を最適な状態で接続します。原則、リンク可能な最も速い速度でリンクされます。10M のレガシー・デバイスや 100 M であっても、自動レート変換により、100M または 1000M で光ネットワークに接続することができます。

### AutoCross™ (オートクロス)

オート・クロス機能は、ストレート結線 (MDI) または、クロスオーバー (MDI-X) オート・クロス 10Base-T/100Base-TX 装置と接続する際、自動的に結線方法を識別します。

### 自動リンクリストア

リンクが喪失している時、メディアコンバータは自動的にリンクの再確立を試みます。

## アクティブ・リンクパススルー (Active LPT)

アクティブ LPT は、2つの動作モードである診断モードとアクティブモードの2種類の動作モードを持っています。

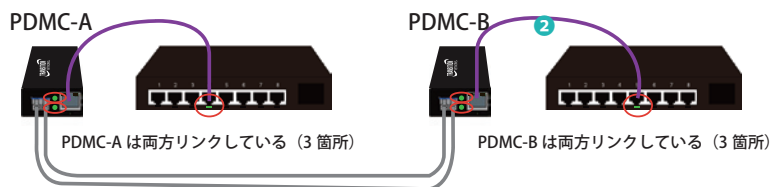
- 電源投入時または SFP 着脱時に、メディアコンバータは、診断状態になります。
- 2つのリンク・ポート（光ファイバと TP ポート）がどちらもリンクし、かつ対向のメディアコンバータの2つのポートもリンクを確立した後、アクティブモードになります。

診断モードでは、メディアコンバータの各ポートで互いに独立して起動できます。光ポートは挿入された SFP の TX ポートから光送信パワーが常時送信され続けます。また、RX ポートは受光出来次第、光リンク LED が点灯します。同様に RJ-45 ポートも 10/100/1000Base-T のオートネゴシエーションが開始されますので、リンク・パートナーのデバイスがオートネゴに対応している限り、速やかにリンクが行われて、RJ-45 のリンク LED が点灯します。

次の条件が満たされるまで診断モードのままになります。

- 対向両方の2つのポート（SFP と RJ-45）のリンクステータスがすべてリンク・アップするまで。

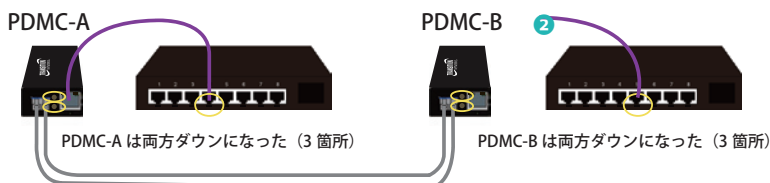
条件が満たされると、ALPT はアクティブ状態になります。コンバータの電源が切れるか、SFP モジュールが取り外されるまで、アクティブ状態のままになります。アクティブ状態では、アクティブ LPT は次のように機能します（通常の LPT が有効な場合と同じです）。



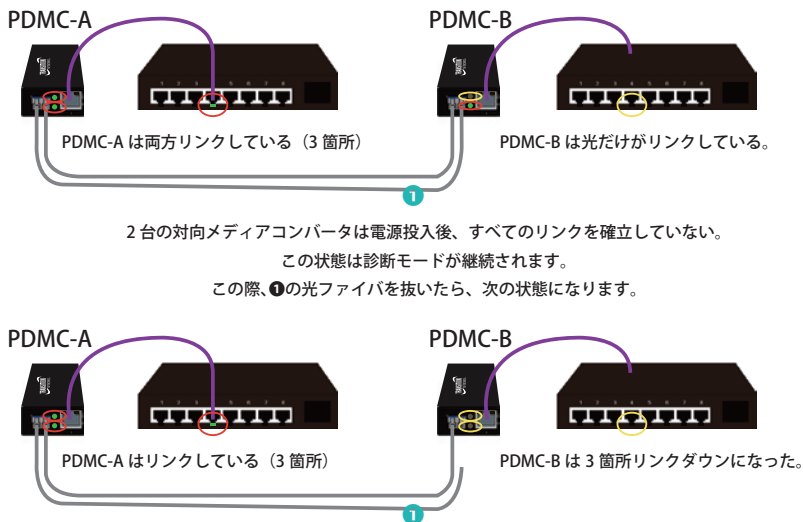
2台の対向メディアコンバータは電源投入後、すべてのリンクを確立した。

LPT 有効化されました。

この後、②の TP ケーブルを抜いたら、次の状態になります。



診断モードが実行されている時は次のように動作します。



## 互換性のある対向デバイス

下表に示している製品は、ActiveLPT 機能を含め、M/GE-ISW-SFP-01-PD の対向先として、使用可能な製品です。

必ずしも、両対向に PoE-PD バージョンが必要無い場合、様々な特長を持った下記製品から選択できます。

製品名	ポート 1 ↔ ポート 2 構成
M/GE-ISW-SFP-01	10/100/1000Base-T ↔ 100/1000Base-X SFP スロット (空き) ※電源別売 (推奨電源: SPS-UA12DHT) ※動作温度拡張モデル
M/GE-PSW-SFP-01	10/100/1000Base-T ↔ 100/1000Base-X SFP スロット (空き) ※標準 AC100V 用電源付属 ※動作温度通常モデル (0℃～50℃)
M/GE-PSW-PSE-01	10/100/1000Base-T PoE+ ↔ 100/1000Base-X SFP スロット (空き) ※標準 AC/DC 電源アダプタ付属 (AC200V 電源ケーブルは別売) ※動作温度通常モデル (0℃～40℃)

## 2 芯光ファイバ・ケーブル仕様

ビットエラー・レート	< 10 <sup>-9</sup>
推奨シングルモード光ファイバ:	9.0μm
推奨マルチモード光ファイバ:	62.5/125μm
マルチモード光ファイバ (オプション):	50/125μm

トランジション・ネットワークス社が提供する SFP トランシーバ・モジュールはクラス 1 レーザーの安全規格を満たしています。標準 IEC-825/CDRH および 21 CFR1040.10、21CFR1040.11 を遵守しています。

## ツイストペア・ケーブル仕様

カテゴリ 5 または 5e 以上を推奨: (1000Mbps を使用する場合は 5e 以上)

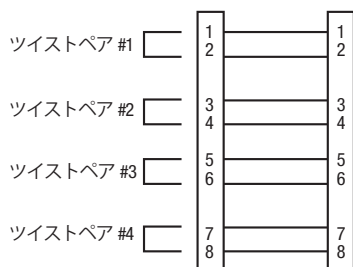
ゲージ: 24 ~ 22AWG (0.2 ~ 0.3 スクエア)

減衰: 22.0 dB /100m @ 100 MHz

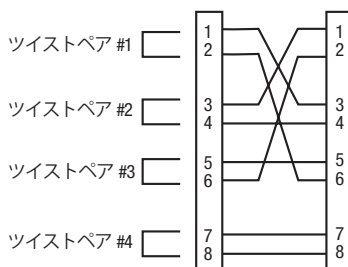
ケーブル最大長: 100m

- ストレートまたはクロスツイストペアケーブルを使用することができる。
- シールド付 (STP) またはシールドなし (UTP) のツイストペア・ケーブルを使用することができる。
- 1 番と 2 番ピンおよび 3 番と 6 番ピンが対になっているツイストペア・ケーブル。

CAT5e ストレートケーブル



CAT5e クロスケーブル



## 技術仕様

この仕様はトランジションネットワークス社 M/GE-ISW-SFP-01-PD メディアコンバータに適用される。

標準規格	IEEE 802.3-2012
放射の法規制遵守	EN55022 クラス A
電磁波耐性の法規制遵守	EN55024
安全基準	適用外
データ・レート	RJ-45：10Mbps、100Mbps、1000Mbps SFP スロット：100Mbps または 1000Mbps (SFP は電源投入時にレート決定、未挿入時 1000Mbps)
最大フレームサイズ	10,240 バイト
ユニキャスト MAC アドレス	1K
外形寸法	(幅) 45.72mm × (奥行) 83.8mm × (高さ) 20.3mm
重量	約 110g (SFP 除く)、出荷重量：0.5kg
消費電力	1.8W (47mA@DC37V PoE 入力時)
電源供給	IEEE802.3af Type1
動作温度	-40°C ~ +75°C
動作湿度	5% ~ 95% (結露無きこと)
保管温度	-40°C ~ +85°C
MTBF	225,000 時間以上 (MIL-HDBK-217F) 618,750 時間以上 (Bellcore7 V5.0、25°C環境にて良性のアースと接続時)
保証期間	5 年間

## トラブルシューティング

メディアコンバーターに障害が発生した場合は、次の質問に答えてから指示されたアクションを実行して、障害を切り分けて下さい。

### 1. PWR（電源）ランプが点灯していますか？

いいえ

□ この受電デバイスは、IEEE802.3af または at に完全に準拠していますので、適切なケーブルとして、Cat5 以上の RJ-45 コネクタ付ケーブルで、ストレートまたはクロスオーバー結線でコネクタの端から端まで最大 100m 以内のケーブルで接続できます。PoE 給電装置 (PSE) につきましても、IEEE802.3af/at に準拠したものをご利用下さい。なお、ラントロニクス社製品であれば、802.3bt 製品でも下位互換を持っているので、どの製品でも対応可能です。

□ 巻末の技術サポートにお問い合わせください。

はいの場合は次の項目へ

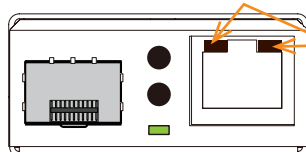
### 2. TP L/A LED が点灯していますか？

いいえ

□ ツイストペア・ケーブルとリンク先デバイスが正しくリンク可能なケーブル種類またはデバイスの設定が適切であるか、ケーブルの仕様書を確認してください。メディアコンバーターはオートネゴシエーション信号を要求しています。

□ 対向 2 台の M/GE-PSW コンバーターの双方のリンクが 1 回でも上がったことがある場合は、アクティブ・リンクパススルー (ALPT) 機能によって、光ファイバ側がリンクしていない限り、TP リンクも上がりません。もし、TP リンクの動作を単独で確認したい場合は、機器の電源を一旦切ってから、入れ直して下さい。

□ 時々、誤解があるようですが、RJ-45 側の上 2 箇所には発光部品がありません。



この LED は常に消灯しています

□ 巻末の技術サポートにお問い合わせください。

はいの場合は次の項目へ

### 3. SFP（光ファイバ）L/A LED が点灯していますか？

いいえ

□ 2 心光ファイバケーブルの TX コネクタと RX コネクタを逆に挿入していませんか？

□ 光ファイバケーブルの種類は製品モデルや SFP モジュール型番の仕様に正しいですか？

□ シングルモードの場合、コネクタ端面が過剰に汚れていませんか？

□ 対向 2 台の M/GE-PSW コンバーターの双方のリンクが 1 回でも上がったことがある場合は、アクティブ・リンクパススルー (ALPT) 機能によって、TP 側がリンクしていない限り、光ファイバのリンクも上がりません。もし、光のリンクの動作を単独で確認したい場合は、機器の電源を一旦切ってから、入れ直して下さい。



## お問い合わせ

製品の動作に関するご質問およびお問い合わせ、または設置についてのご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

製品の故障や不具合が疑われる場合は、下記まで製品を電源アダプタ付で送付頂ければ調査致します。また、障害状況により対向先メディアコンバータと共にお送り頂く必要がある場合がございます。

株式会社ピーエスアイ

本社：〒 160-0022 東京都新宿区新宿 5-5-3 建成新宿ビル 4F  
TEL(03)3357-9980 FAX(03)5360-4488

大阪営業所：〒 532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 4-1-4KDX 新大阪ビル 9F  
TEL(06)6151-4034 FAX(06)6151-4035

福岡営業所：〒 810-0001 福岡県福岡市中央区天神 3-4-5 ピエトロビル 4F  
TEL(092)731-1238

名古屋営業所：〒 460-0003 愛知県名古屋市中区錦 2 丁目 9 - 27  
NMF 名古屋伏見ビル 8F-A  
TEL(052)217-8810

E-Mail: [support@psi.co.jp](mailto:support@psi.co.jp)

コーポレート・サイト URL: <https://corp.psi.co.jp>

サポート専用サイト URL: <https://sp1.psi.co.jp>

### 製品に印刷されている登録商標ロゴの変更について

現在、製品の箱の登録商標ロゴマークの変更がある場合がありますが、今後製品写真でも表現されているカバー面に印刷されるロゴマークが突然変更される場合があります。変更予定時期は未定ですが、メーカー都合による（カバー部品枯渇により）即変更される場合がございますが、予めご了承願います。

製品カバー天面にある製造元の登録商標（ロゴ）は、  
突然右記のように変更される場合があります。



従来ロゴ



変更先